

第 60 回講演会<2019 年 11 月 27 日開催>

中小企業経営者が思う神田外語大学生に期待すること

諸岡 良和（執筆＝木村昌人）

■講演者……諸岡 良和

（米屋株式会社代表取締役社長）

■司 会……木村 昌人（関西大学客員教授、
本学国際コミュニケーション学科非常勤講師）

2018 年 4 月

成田商工会議所青年部 会長就任

2019 年 6 月

一般社団法人 成田市観光協会副会長就任

2019 年 9 月

成田空港対策協議会 副会長就任

諸岡良和（もろおか よしかず）氏の略歴

1974 年 8 月 26 日 千葉県成田市生まれ

1993 年 3 月 私立成田高等学校卒業

1997 年 3 月

専修大学経営学部経営学科卒業

1999 年 5 月

アジア放浪の旅へ。10 月下旬に沖縄に
帰国し、自電車で成田まで

2000 年 1 月 米屋株式会社入社

2010 年 5 月 米屋株式会社 常務取締役就任

2013 年 1 月

一般社団法人 成田青年会議所理事長

2015 年 5 月

米屋株式会社 代表取締役社長就任

開会のあいさつ：高杉忠明（本学グローバル・ コミュニケーション研究所所長）

本講演シリーズは、グローバルな視野に
立って、本学が所在する千葉県の産業と文化
の現状とその将来について日々ユニークな取
り組みを行っている企業家、文化人などから
直接話を聞くことにより、本学学生の地元へ
の理解を深めさせるとともにグローバル時代
の生き方について考えさせることを目的にし
ています。

今回は、成田山新勝寺の表参道で、百年以
上の歴史を持つ老舗和菓子店米屋の社長諸岡
良和氏が、同社のユニークな取り組みと国際
観光都市成田の現状を踏まえ、グローバルな
視野から将来を展望し、本学学生への期待を
お話ししていただきます。日本の空の表玄関、
成田空港のある成田は、940 年に建てられた
真言宗の総本山の一つ成田山新勝寺の門前町
として発展しました。初詣の参拝者数は、明
治神宮に次いで全国第二位で、寺院に限れば
全国第一位を誇っています。

【講演要旨】

米屋の歴史

今年創業 120 周年を迎えた菓子製造・販売



諸岡氏

会社の米屋株式会社は、1899年諸岡長蔵が成田山参道に「米屋」を開設し、羊羹販売を行ったのが始まりです。1879年に生まれた長蔵は、幼少期は病弱でしたが、天理教に助けられ、熱心な信者になりました。長蔵は羊羹の製造販売のほかにも、道德科学（モラロジー）の提唱者廣池千九郎（ひろいけちくろう）への支援や成田山はじめ地元に対して数多くの社会貢献を行いました。

第二次大戦中はやむなく休業しましたが、1945年「株式会社米屋本店」に改組、1949年に営業を再開しました。1952年ごろから全国各地へ営業所を開設し、全国展開を図ったのです。1962年には缶入り羊羹を発売、1990年にはCIを導入し、ブランドイメージを統一し、社名も「米屋株式会社」に変更しました。1998年には直営店第一号の勝田台店を開店し、ぴーなっつ最中を発売し、人気商品となっています。2002年には成田山参道に面した總本店が新築店舗としてリボーン。2006年にはセブンイレブンでどら焼販売を始めるなど、「なごみの米屋」として、次々とユニークな試みを行い、2018年度の売上高は85億円に達し、従業員は306名（うちパートは251名）という大企業に成長しました。先月（2019年10月）神田外語大学からも歩いて行けるペリエ海浜幕張店をオープンしました。

本業のほかに文化事業にも力を入れています。總本店と同じ敷地内に成田羊羹資料館を開館し、明治、大正、昭和、平成、令和にまたがる同社120年の歴史をわかりやすく展示しています。このほかにも、和菓子教室、茶会、絵画展などを開催しています。

今後の米屋の戦略と取り組み

21世紀になり、私たちのビジネスを取り巻く環境は大きく変わりました。まず少子・高齢化による人口、特に生産人口の減少です。次はグローバル化です。海外の出来事により国内のビジネスも大きな影響を受けます。和菓子の材料も、日本国内だけでは調達できません。



米屋の人気商品「ぴーなっつ最中」

輸入に大きく依存しています。三つ目はデジタル化です。米国の実業家スティーブ・ジョブズが世界を変えたことは良くご存じでしょう。スマホの誕生、5G、IOT、AIなどにより、世界の情報環境は一変しました。今ではどこの国でも電車の中や駅のホームなどで、ほとんどの人がスマホを操作しています。そのため、あらゆる情報を共有することが容易になり、世界で行われていることが似通ってきました。

最後は地球環境の激変です。今年甚大な被害をもたらした大型台風の襲来、それに伴う河川の決壊、ゲリラ豪雨などは一過性の異常気象ではなく、ここ数年世界中で常態化しました。これらが人の心理を左右し、経営に多大な影響を与えるようになりました。経営とは人の心理がすべてを決めるといっても良いでしょう。つまり、お客様の心理、社員の心理、社会全体の心理、これら三つの心理にすべて応えることが、企業を永続させる条件です。企業が人や社会に役立つこととは、価値（満足）を与えることと、不満や不安を取り除くことです。これに対して、人々がどれだけ対価を払っていただけるかを考えなければなりません。

企業が生き延びるためにはこの三つの心理を把握し、それらに沿って他社より優れた価値を提供する。または他社より不満・不安をより多く取り除くことができるかが、その企

業の強みになります。自分しか持っていないものから強みをつくる。これを見つけ、自ら創り上げることが大切なのです。他社との差別化を行っていかねば企業は存続できません。

それでは今後米屋はどのような戦略でビジネスを行っていけばよいのでしょうか。またそのためにどのような取り組みを行っているかをお話します。

まず、地縁という強みを発揮することです。つまり成田や千葉に根を下ろした深耕戦略が必要です。次に人口減少とグローバル化に対応するために販路の積極的な開拓を行う拡大戦略です。三番目にデジタル化、人口減少、働き方改革の流れの中で、生産性を高めるために IT 投資を行うことです。最後は最も重要な優秀な人材の育成と確保です。企業は人なりといわれるとおり、人口減少、グローバル化、の中で生き残っていくためには強みの源泉となる人材がなければ何もできません。これら四点について必死に取り組んでいるところです。

企業が望む人財とは

さて、これからが本題です。会社は利益を上げることが前提です。したがって利益を上げることのできる人を望んでいます。それでは利益を上げられる人とはどんな人でしょうか。あるいは企業はどのような「じんざい」を望んでいるのでしょうか。

私は、四つの「じんざい」があると考えています。まず「人財」で、自分で考えて自分で成果をあげられる人です。これこそ会社が求めている「じんざい」です。次が「人材」で、言われたことなら自分でやり切れる人です。会社が求めている普通の「じんざい」です。三番目は、「人在」で、言われたことを言われた通りにやるだけの人です。不況になると辞めてほしい「じんざい」です。最後が、言われたこともできないのに不満が多い人、「人罪」です。このような人は、できるだけ早く

辞めて欲しいのです。

つまり企業は人財を求めているのです。ただ、他人とは違う人財が必要なのです。それではそのような人財とはどのような人を指すのでしょうか。一言で言うならば、世界を意識している人です。神田外語大学の皆さんにはぜひ世界を意識している人になってほしいのです。

基本的なことから見いきましょう。私たちが住んでいる日本は、島国で山林が多く平地が狭いため人口密度が高くなっています。さらに自然災害が非常に多い国です。日本人の性格はこれら三つの要素から作られています。内向き・保守的で、視野が狭いが、災害を乗り越えることから、協力的で、技術力を重視する性格です。日本人が世界の中で生き延びてゆくためには、こうした性格を外向きになり、広い視野を持ち、更に協力し、技術力を高めるためには、積極的に世界へ羽ばたくことが大切です。外国を訪れると目が開かれます。例えば私は中国に注目しています。中国ではキャッシュレス化が進み、買い物や交通機関の支払いもほとんど現金を使わず、スマホ決済になっています。全国の主要都市を結ぶ高速鉄道網やハイウェイ交通網も急速に整備されています。例えば北京＝上海間は新幹線で3時間しかかかりません。中国がこれからの世界を動かしてゆくことは間違いありません。

次に神田外語大学の強みは何でしょうか。外国語の勉強を通じて、外国が日常化していることと千葉・幕張という外国が身近に感じられる立地条件です。ほかの大学の学生より世界に対する意識がずっと高いと思います。その強みをより生かし、世界で活躍するための必須条件は、自国への愛着と誇りを持たなければなりません。日本の風情や情景を心に刻み、文化と歴史に対する知識を身に着け、伝統を伝承・継承してそのすばらしさを学ぶことです。日本各地には、匠が手掛けた建築物が風景に溶け込んだ美しい場所が数多くあり、

世界中の人を魅了しています。奈良の法隆寺、京都の金閣寺、岩国の錦帯橋、金沢の兼六園、沖縄の首里城など枚挙にいとまありません。

ところで、仕事をするのは幸せを創り出すためでもあります。私が考える幸せとは、第一に、挑戦、行動、そして反省するという成長思考を持ち続けることです。次に奉仕の心と行動です。自分一人では何もできません。他人や社会に対する感謝の気持ちを持つことです。つまり「情けは人の為ならず」（人に情けをかけると、そのよい報いはめぐりめぐって、必ず自分に戻ってくるものだ）なのです。そして周りの人や環境との調和を図ることです。幸せはシェアすればするほど拡大します。共感できる仲間を増やすことを心がけています。

就職活動について具体的なことについてお話ししましょう。まず気を付けなければならないことは服装・礼儀・挨拶といった所作についてです。これらをきちんとできる学生は意外に少ないのです。しかし就職活動においてはこうした普段の所作がものを言います。またいつも笑顔で人に接することです。自分が暗い顔をしていると相手にもそれが伝わってしまいます。相手の立場に立って考えれば、笑顔を絶やさないことが必要です。

次に必要なことは、理解能力と発信能力です。他人の言うことに耳を傾け、相手を理解しようと努力することです。一方で、自分の考えを持たなければ発信能力は身につけません。ポイントは自分に自信を持っているか、です。自信を持てるかは、学生時代にどれだけ経験を積むかにかかっています。

三つ目は健康です。どれほど高い志を抱いていても、病気になってしまったら、何もできません。学生時代はともすれば不規則な生活を送りがちになりますが、栄養と運動と休養のバランスを考え、基礎正しい生活を送ることが、人生で健康を維持することにつながります。

最後になりますが、神田外語大学の皆さんには広く世界に目を向け、常に向上心を持ち

続けて前向きに、積極的に活動してください。
ご清聴ありがとうございました。

【質疑応答】

質問：向上心を持ち続けることはなかなか難しいのですが、どのようにしたらよいのでしょうか。

諸岡氏：目標を高く持つことが肝要です。富士登山について考えてみましょう。富士山へ登る道は、初心者向けからベテラン向けまで様々ですが、登山者の目的は、日本一の高さを誇る標高 3,776 メートルの頂上を目指すことに変わりはありません。その目標さえ変わらなければ、登山方法は自分に合ったやり方でよいのです。試行錯誤してルートや方法を変えて、一日で頂上まで行かなくてもよいですし、途中まで車で行っていても良いでしょう。いったん目標を決めたら焦らず、試行錯誤しながら頂上へたどり着くことが大切です。目標が高いほど達成感を感じることができます。

質問：少子・高齢化やグローバル化といったビジネス環境の変化は、米屋のビジネスにどのような影響がありましたか。

諸岡氏：当社のお客様の年齢層が比較的高いので、若者にも受け入れられるような商品の開発や採用が難しくなっています。グローバル化に関しては、成田に店舗があるため外国人のお客様が増加しました。そのため外国人を社員として採用し、サービスや対応を心がけています。

質問：会社を選ぶときに迷いが生じた場合はどうしたらよいのでしょうか。

諸岡氏：人生には決断が必要です。決断しなければ先に進めません。皆さんは日々大小の決断をしているのです。いつも最善の決断ができるかどうかわかりませんが、決めた目標に向かって努力すれば何とかなるものです。また誤断の場合には、その原因をよく考えて、次の決断に生かしましょう。とにかく楽観的に物事を考えましょう。